

株式会社ファイントゥデイ
ホールディングス
代表取締役 CEO

小森 哲郎



事業とESGを経営の両輪として 世界の持続可能性の実現に寄与します

ご挨拶

ステークホルダーの皆様には、日頃からファイントゥデイグループに対するご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、2021年7月に株式会社ファイントゥデイ資生堂として創業後、これまで着実に事業規模を拡大してきました。現在、技術開発から生産、販売に至るまで一体となった自律的な経営体制の確立に向けた取り組みを、スピード感を持って推進していますが、一方で、それによるサプライチェーンの拡大に伴い、当社グループが接するステークホルダーの方々の範囲も拡大しています。あらゆるステークホルダーの方々から、より一層の信頼を得るとともに、社会の一員としての責任を果たすために、事業運営と一体で気候変動への対応やサプライチェーンにおける人権問題などに更に主体的に取り組み、その情報を積極的に開示する必要があると認識しています。

本レポートにおいては、情報開示の一環として、持続可能性(サステナビリティ)に関連した内容を中心に現在の取り組みを紹介しています。本レポートにより、当社グループに対する読者の皆様のご理解が深まれば、この上ない喜びです。

長く続いたコロナ禍はようやく落ち着きを見せ始めましたが、原料価格の高騰や不安定な外国為替など事業環境には依然変動要素が多く存在しています。当社グループはかかる状況下でも、2022年度において増益

を確保することができました。引き続き2023年度も、当面の目標である株式上場を目指して、サステナビリティに向けた取り組みも含め、従業員一丸となって企業価値向上に努力していく所存です。

パーパスは「ファイントゥデイ号」にとっての北極星

当社グループは、株式会社資生堂と株式会社エフティ資生堂からパーソナルケア事業を引き継ぐ形で2021年7月に事業をスタートしました。多様性に富んだ組織、そして飽くなきフロンティア精神を原動力に、私たちは世界中の人々の「素晴らしい今日」のために、美意識を礎にした心と身体を豊かにする製品・サービスをお届けしています。

2022年7月には創業1周年を機に、社名の由来ともなった「世界中



全ての人に『素晴らしい一日』を」という思いを、より洗練した形で言語化し、目指すべき方向性を明確にするために、「パーパス」(わたしたちの存在意義)と「バリュー」(わたしたちの価値観)を定めました。日本ならではの美意識や真・善・美を大切にしつつ、各国・地域のニーズに沿ってローカライズした製品を提供することで、パーソナルケア領域における、アジア地域のグローバル企業のロールモデルとして、サステナブルな発展を遂げていく決意を込めています。

これらの策定に当たっては海外のグループ会社を含む従業員が中心となって主導しました。パーパスは私たち「ファイントゥデイ号」が、100年先も私たちの子どもや孫世代に敬愛される企業グループであるための航海をする上での北極星です。自分たちがつくり上げたパーパス=北極星のもと、従業員一人ひとりが航路を見定め、あらゆるステークホルダーの皆様へ持続的に価値を提供し続けていく所存です。

当社グループにとってのESGの位置付け

パーパスを起点として、世界中の誰もが心豊かに、毎日を前向きに過ごせるよう挑戦を続ける当社グループにとって、事業運営とESGの推進は、どちらが欠けても会社が成り立たない、経営の両輪を成すものです。

サプライチェーン上で多くのステークホルダーと関わる日用品事業では、関係するステークホルダーの皆様に対し、事業面のみならず、環境、人権をはじめとしたサステナビリティの面でもどのような価値を提供できるのかという点が非常に重要であると考えています。パーパスと密接に紐付き、機能的価値にとどまらず情緒的価値も伴った製品の提供や、各種ESG施策の実行により信頼・共感・感動を獲得する。これにより、人・社会・環境へのポジティブなアクションにつながるような行動変容をステークホルダーの皆様と共に生み出していく。そして更なる事業発展や

当社グループにとってのESGの位置付け

事業運営とESGの推進はパーパス経営の両輪を成しています。

パーパス経営の基本コンセプト



高レベルなESGの推進へ向かう。こうしたサイクルを生み出すことで、財務・非財務を統合した企業価値の向上を目指します。

ESGの具体的な取り組み

持続可能な企業であるためには、世界のサステナビリティに寄与する存在でなければならない。こうした考えのもと、当社グループは創業以来、サステナビリティ経営に向けた取り組みを継続的に強化してきました。

2022年度には、パーパスとバリューの実現に向け2030年度までに取り組むべき中長期ビジョンとして、「ガバナンスの原則」「ピープル」「プラネット」「共栄」の4つの領域を柱とした、「Fine Today & Tomorrow 2030」を策定しました。私たちはこの「Fine Today & Tomorrow 2030」を、あらゆるステークホルダーの皆様を持続的に価値を提供していくためのロードマップと位置付けており、現在、このビジョンに沿ってさまざまな取り組みを推進しています。

これまでの主な成果として、マテリアリティ(重点課題)の特定、国連グローバル・コンパクトやRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)を含む国際規範への賛同、GHG排出量の算定、TCFD提言への賛同と「TCFDレポート」の発行、SBT認定取得に向けたコミットメントレターの提出などがあります。このほか2022年に初めて受審したEcoVadis※からは全対象企業の上位25%に入る評価を得ることができ、シルバメダルを獲得しました。

中長期ビジョン「Fine Today & Tomorrow 2030」においても、「ガバナンスの原則」「ピープル」「プラネット」「共栄」の4つの領域それぞれでKPIを定めて目標達成を目指します。更に、人権方針の制定やワーキンググループの立ち上げなど、人権への取り組みも強化しています。

一方、会社の規模が急拡大する中で、今後はベストプラクティスの水平展開と同時に、国・地域ごとに、それぞれの実情(ESGの取り組みに

対する受容性の相違など)を踏まえた施策を自律的に考察し、実行していく体制を整える必要があると課題認識しています。

各国・地域との連携をより一層密にするべく、お互いの情報を共有し、議論する場を設けることで、サステナビリティに向けた取り組みの広がり

と深みを更に増していきたいと考えています。
※ 175カ国、10万社以上が登録する世界最大のサステナビリティ評価機関。

事業運営において目指すもの

当社グループは、創業間もないものの1,000億円超の売上規模を有しており、大企業とスタートアップ企業の要素を併せ持つ、いわば「Big Venture」です。

また、日本、中国、APAC(Asia-Pacific Regions)の3極でグローバルに競争力のあるブランドを展開し、50%を超える海外売上高比率を有する一方で、そういったブランドでも、各国・地域に合わせてローカライズした製品を展開するなど、現地のニーズに迅速に対応する柔軟な事業推進体制を構築しています。

その状況を踏まえ、中長期ビジョンにおいては、2030年度までに目指す姿を「アジアにおいて世界から期待されるグローバル企業のロールモデル」と定め、そこに至るステップを全社で共有しています。目指す姿の実現に向け、まずは第1のステップとして自律的な事業運営を早期に確立し、アジアを中心に更なる成長を目指していきます。

自律的な事業運営に向けては、事業を開始してから約2年の間に、さまざまな領域において基礎が整ってきました。2022年度にはAPACの10拠点がグループに加わったことをはじめ、日本を含む11の国・地域のITシステムの内製化も完遂しました。更に2023年度には、生産拠点として株式会社資生堂から久喜工場を譲り受け、4月に株式会社ファイントゥデイ

インダストリーズとして新たなスタートを切りました。同年度下半期にはベトナム工場の譲受も予定しています。また、研究・開発拠点についても内製化の準備を着実に進めています。

これらの取り組みを経て、各国・地域の市場ニーズに合わせた高品質で多様な製品の適量供給をより一層迅速・柔軟に行うために、技術開発から生産、販売に至るまで一体化したビジネスシステムの構築に注力し、サプライチェーン全体の最適化を推進するとともに、当社グループの強みである、多くのお客さまに支持いただいている各ブランドの競争力を、更に進化させていきます。

これまでの事業拡大に伴い、発足時に約300名だった従業員数も2023年度中には海外も含めたグループ全体で約3,000名となる見通しです。こうした状況では、部門、階層などを越えてチームとして自律的に課題解決に向かっていくことが極めて大切です。その中で自然な形でインクルージョンが促進され、グローバルなイノベーションが生まれていくと考えています。一例として、生産拠点のファイントゥデイインダストリーズには「モノ申す工場」の機能も期待しており、いち生活者でもある工場従業員の目線から、容器包装や中身についての改善提言を行うなど、組織の枠を越えた課題解決に取り組んでいます。

100年先の世代にも敬愛される企業グループとなるべく、私たちファイントゥデイグループは、先行きが不透明で将来が見通せない世の中においても、パーパスとバリューをコンパスとしながら、さまざまな経営課題を乗り越え、航海を続けてまいります。ステークホルダーの皆様には引き続きのご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

株式会社ファイントゥデイホールディングス
代表取締役 CEO

小森 哲郎